

おかげさま



思いやり

気候の変わり様が以前とは変わってきて‘衣更え’という、暮らしの中の風情ある切り換えの習慣を、

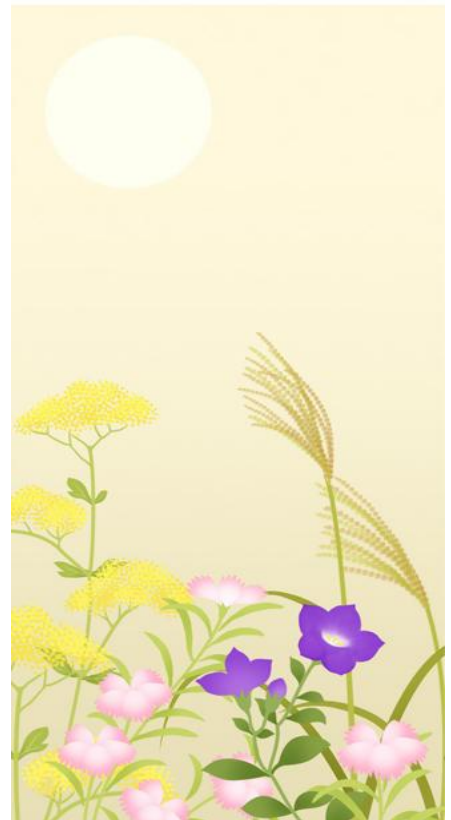
体感としてすぐわないと感じながら秋を迎えました。

私たちの生きてゆく秋は、どんな時なのでしょう。植物で考えてみますと、芽をふき、葉を繁らせ花を咲かせ実を結び、次の芽を育てるために、葉を落としエネルギーの消費を最小限に抑えて、種を育て残します。この身をこそげて、次の芽を育てる時期、人もそんな頃が秋なのかな？とふと思われました。

いかがでしょうか。私たちは、そんな暮らし、生き方をしているのでしょうか。昨今のニュースを聞くたびに、人はどこに向かって生きているのかな？とってしまいます。わが子を叩き殺し、他の人を鎖で繋ぎ自由を奪って殺し、何とかいのちを繋ぐことは出来なかったのかなと悔やまれる自死された人が増えている現状、次々と悲しい出来事が尽きません。

最近になって、メダカを見ていてつくづく思うこと、自然界は厳しい世界だと。自分の領域に他のメダカが入り込むことは絶対許さない、近寄ると攻撃して追い払う、弱い者は最後にはいじめられ死んでしまう。自然淘汰の世界が小さな水槽の世界にもある。人間も思考する生き物ではなく、自分優位に弱者をいじめ、消し去って生きようとする生物になってしまうのだろうか。つまらぬ知恵があるために、余計に残酷な生物だと、悲しくなる。

今の子供たちは、どうも相手の子をけなし、



傷つけても、相手の子の心の痛み、身の痛みを図り知る、察すること、思いやるということが出来ない傾向にあるというデータが出されました。どうしてなのか？それは、そういう気持ち、心が育つ環境、生活空間にいないということでしょう。そういうことの必要性、場面に出会うことがないということだと思います。

してもらって当たり前、自分が手伝ってあげる必要性のない世界自分中心の世界にどっぷり浸かって育ってしまっているのかもしれない。助けてもらって、助けてあげることを知り、困った時に優しくしてもらって、相手が困った時には手助けしてあげる、自分一人ではないことを知ることに出会える生活空間を育てていきたいものです。

爺 婆 孫 孫

秋は運動会季節です。1964年に東京オリンピックが開催され、その開会式が、気象の特異日といわれ晴れる確率の高い10月10日に行われた。それを記念して、10月10日が「体育の日」として祝日になった。働き過ぎの日本人に休みを取らせるために、土日を休まれている人たちが、どうしても動かせない、元旦、春分、秋分、そして天皇に関連した祝日を除いて、月曜日に移動して三連休と称して、国民に範を示した。おかげで、10月8日は何故祝日なのか解らない人もいる。子どもは学校が休みなら文句はない。



ご多分に漏れず、7日は、いや前日から大騒ぎ。”♪シトシトピチャン、シトピチャン……”7日の日は朝から雨だった。天気予報も1時間ごとにめまぐるしく変わる、最悪の日だった。決行されるかもしれないうちは、お弁当の準備も怠るわけには行かない。6時までの時点では雨はあがりそう。6時を過ぎたら、お昼まで降りそう。責任者はさぞ胃が痛かろう。結局、体育の日に順延。しばらく家の中では暴風雨落雷竜巻警報が…。

孫は、機嫌がいい時だけでいい。とどちらの爺婆も申しております。孫は可愛いね、最



私一人では生きていけない、生れた時から何かしらの手立てによって育てられ、今生きている私です、たくさんのおかげさまによって生かされています。

あなたは一人じゃない、いつでもわたしはそばにいますと、阿弥陀さまはお伝えくださっているのです。阿弥陀さまというと身近な方とは思えないかもしれません。でもわたしたちの身近な亡くなれた方々は阿弥陀さまと御一緒に、仏さまとなられて、私たちのところにいつも一緒にいてくださっているのです。それっ



てどういうことなのかな?と思われるかもしれません。

是非、今回の報恩講のご縁に遇わせていただき、いかなることかとお聴きいただけますようにお誘いさせていただきます。

明 石 狸

今年の夏は事の外暑かった。その暑さも、本堂に空調設備のご寄進があり、涼しく過ごすことができた。と老僧が申しておりました。来年からは、真夏ご法事も涼しくできるので、増えるかな。でも墓地は暑いですよ。

鬼瓦の修理は、段取りができてからということで、鬼瓦待ちです。避雷針設置も同時に行う予定です。雷よけ?火防?霊験高い?阿弥陀さまでも“仏の顔も三度”なんて、これは冗談です。本堂の電器回線もかなりダメージを受けたので、一緒にお勤めする時、お経本がよく見えるように明るくする予定もあります。



あけし あれこれ

白い彼岸花（アルビフロラ）



「赤い花なら曼珠沙華」と歌われますが、経典に登場する、曼珠沙華はサンスクリット語の“manjusakaマンジュシャカ”の音写（音を漢字であらわす）と言われ、白く柔らかな花です。あちこちで、真っ赤な彼岸花（曼珠沙華）の群生が見られます。樹覚寺では、川沿い

の土手の群生が目につきます。赤い花というイメージが強い花ですが、境内の一か所、白い彼岸花が咲きます。もう10年近く前に一個球根を買って植えました。何とか毎年、出てくるかなと気にかけて待っていると、雨が降った後に気がつくともよキッと伸びて、花芽を着けています。少しずつ殖えてきました。華やかな庭のかんざしです。今年はいつもの年よりかなり遅く咲き出しました。

白ヒガンバナあるいは白色まんじゅしゃげといわれるものには、花色、花形、葉色の異なるタイプがいくつかあります。花色は純な白というわけではなく、クリームがかった白、うすいピンクがかった白、濃い目のピンク（アルビピンク、チェリーピンク）などいくつかの変異が見られます。

白ヒガンバナは黄色のシュウキランと彼岸花の雑種といわれています。

